

— 告 白 —



島田 颯稀 (しまた さつき)

金沢工業大学
バイオ・化学部
応用バイオ学科三年
新潟県立直江津中等教育学校出身

初めて名刺をくれた学生は、SDGsで課題解決に挑む。

KIT
キャンパス
レポート 03
文・杉村裕之

左耳に小さなリングのピアスを通し、清潔感のあるカジュアル着で颯爽と現れた島田さん。そんな今どきの学生から名刺を渡され、小さな驚きを覚えた。このコラムを担当して三十四人目にして、初めてのことだったからである。

名刺には、「SDGs Global Youth Innovators代表」の肩書があった。学生の視点と発想でSDGsを推進す

「クル。一分間のプレゼンテーションは場慣れした彼でも緊張したそうだが、取り組み事例を臨機応変にアピールし、審査員を引きつけた。「僕たちの活動の価値が客観的にも高く評価され、やりがいを感じることができました」

「土中の微生物から風土病の特効薬を作り、数億人の命を救った業績に感銘を受け、医者になりたい」と思いました」と振り返る。

るKITの学生プロジェクト団体であり、ゲームフィケーション教材の開発や小中高校生らを対象にしたワークショップの企画、運営などを手がける。今年二月、開催された日本最大規模の学生SDGsアワードでは、見事、最優秀賞と特別審査員賞をダブル受賞した。

「土中の微生物から風土病の特効薬を作り、数億人の命を救った業績に感銘を受け、医者になりたい」と思いました」と振り返る。残念ながらドクターの夢は叶わなかったが、医療とも深く関わるバイオを選択し、KITへ進んだ。そして、もともと自分に自信をつけたいと、課外活動のSDGs Global Youth Innovatorsに参加。ワーク

ショップやイベントでは、自治体や企業、学校関係者らと意見交換や共同作業の経験を重ねてきた。その蓄積が、ある意味、学生らしくない島田さんの高い「社会指数」につながっているに違いない。そう、名刺でもある。

将来の夢を聞いた。「大学院に進み、就職は商社を考えています」。確かに、「カップ麺からロケットまで扱う」とされる総合商社なら、SDGsの持続可能な開発目標を俯瞰して、多種多様な商品とサービスを全体最適へハンドリングできる可能性が広がる。

現在、国連食糧農業機関と連携して開発するゲームフィケーション教材を縁に、今年夏、ブータンで開催のユースサミットに参加の予定だ。彼の成長曲線と自信という補助線は、どこまでも伸びていく。

金沢工業大学

石川県野々市市願が丘七-1
電話番号(076)248-1100